九州歯科大学第六七回卒業式式辞

式辞

本日、ここに、小川洋福岡県知事をはじめ、来賓各位ならびに保護者の皆様のご出席を賜り、第六七回卒業式を挙行できますことは、卒業生はもとより九州歯科大学教職員においても大きな歓びであります。ご多用中にもかかわらず、ご臨席を賜りました来賓の方々に厚く御礼を申し上げます。

また、本学に入学以来、成長を見守ってこられた保護者の皆様方におかれましては、その歓びは一方ならぬものと拝察申し上げます。教職員を代表して、心よりお祝い申し上げます。

さて、歯学科六七期生および口腔保健学科六期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。今日の皆さんは、卒業証書・学位記を手にして、入学時から今日までの思いがつぶさに蘇り、感無量のことと思います。送る立場の我々教職員も、歯科医療の世界で、明日から君たちが溌剌として活躍する姿を思い浮かべ、社会に貢献する歯学士および口腔保健学士に育て上げたという安堵感とともに、本学で培ったプロフェッショナリズムの精神をもって、これからの

厳しい実社会での成功を切に願っています。

九州歯科大学は、二〇一五年の一〇月に、あらたに九州歯科大学憲章を制定し、これまでの三つの基本理念に加え、六つの教育研究目標を掲げ、実践的な歯科医療人の育成教育の推進を加速すべく、第二次教育改編を開始しました。この九州歯科大学憲章の前文には、「平成二六年の創立百周年を機に九州歯科大学は、次なる世紀に向けて患者中心の歯科医療が提供できる人材の育成を第一義に掲げ、学生、教員、職員の三者が一体となって、理念の共有と目標の実現を目指します」という文言が綴られています。本学で学修してきた皆さんは、大学を卒業後、あらたな組織の一員として生きていくことなりますが、いかなる状況にあっても、本学での教えを基盤にして、常に高い志と向上心を忘れることなく、生涯研修に励んでください。そして、様々な局面で自らに課題を課し、培ってきた知識と技術ならびに高い倫理観をもって行動するする社会人になることを切に願っています。

古き良き伝統を有する九州歯科大学は、設置団体の福岡県の温かいご支援のもとで、これまで通り、歯科医療界を牽引する実践的歯科医療人を育成していくことに変わりはありません。そのうえで、九州歯科大学が掲げる Global

and Local Academic Collaboration を忘れることなく、卒業生諸君もこのような環境のもとで修学したということを心に刻み、歯科医療人としてグローバルな道を歩むことを強く望みます。

近年、厚生労働省は、二〇二五年を目途に、「地域包括ケアシステム」の構築を唱えています。そのなかで、我々歯科医療人に対して、多職種連携を通じて、地域住民の健康増進に貢献することが強く求められています。九州歯科大学は、このような歯科医療を取り巻く環境の変化をいち早くとらえ、歯学教育を改編してきました。

そのようななか、今年度の卒業生は、臨床実習のなかで、本学附属病院以外に、医科総合病院での実習を通じて、歯科医師と歯科衛生士からなるオーラルヘルスチームとしての活動の重要性を実感したと思います。このような意識を共有することにより、これから展開される医科歯科連携医療において、メディカルチームと一体となって歯科医療人として活躍し、多職種連携を展開することができる優秀な人材となることを願っています。

九州歯科大学は、二〇一六年一〇月、歯科医療人の知識と技術、歯科医療に向かう心を高めていくという視点に立

って、口腔保健・健康長寿推進センター（通称、DEMCOPセンター）を開所しました。九州歯科大学は、このセンターを通じて、卒業生諸君の歯科医療人としての活動が豊かなものになるよう伴走していきます。さらに、本学は、福岡県が昨年設立した「ふくおか健康づくり県民会議」の構成団体として、成人歯科検診の受診率の向上に資するプロジェクトを立ち上げます。このような大学の活動を踏まえ、卒業生諸君は、常に生涯研修を忘れることなく、今後、大学に眼差しを向けて根拠に基づく地域医療（Evidence-based dentistry）を展開してください。

むすびに、世界的に著名な経営思想家で、マネジメントの父と呼ばれる P.F.ドラッカーの「組織は、もはや権力によっては成立しない。信頼によって成立する。信頼とは好き嫌いではない。信じ合うことである。そのためには、互いに理解していなければならない。互いの関係について互いに責任を持たなければならない。それは義務である。」という言葉を卒業生諸君に伝え、明日からの社会人として歩む道のりの道標とすることを強く望みます。あわせて、これまで私自身への戒めの一つとしてきたドラッカーの金言「最も重要なことから始めなさい」という言葉を卒業生諸君に贈り、国内外で広く活躍する歯科医療人となるこ

とを切に願い、私からの式辞と致します。

平成三一年三月一四日

九州歯科大学

学長　西原　達次